パ　ズ　ル

茂呂　良彦

ここ数年、大工仕事を楽しみのひとつにしている。もともとは、持病のある母親のために、実家の母親の歩く場所に手すりを付けたのが始まりである。手すりは、場所や高さ、長さや太さなどを使う人に合わせる必要がある。付ける場所によっては、一筋縄では行かず、かなり考えて、工夫が必要なのである。この工夫が面白く楽しいのである。

例えば、玄関で靴を履くときの手すりを付けようとした時、壁は漆喰だった。漆喰には釘やビスは打てないし、アンカーも効かない。仮に打てたとしても、体重をかけるには強度が足りない。通常の発想では手すりは付けられないのである。

そこで、２×４（ツーバイフォー）材を、大引きと横木にノミでわずかな窪みを入れてズレないようにして基礎から立ち上げた。壁を使うのではなく、その周りを支えている木枠を使ったのである。手のあたる部分はグラインダで削ってみた。２×４材は６フィートで２００円足らず、ビス６本は１００円程、工作技術は中学校で習うそれ程度で十分である。実用一点張りの手すりだが、これが思いのほかうまい具合にでき、父親にも好評であった。これを考えるのに、ホームセンター内のあちらをウロウロこちらをウロウロしながら３時間ほどかかった。しかし、このウロウロしている時間こそ、パズルを解くような面白さなのである。

以上のようにして、私の最近の休みは過ぎていくのである。ホームセンターで私を見掛けたら、頭の中でパズルを解いているのだと思って、そっとしておいて欲しい。